

麻生養護学校 校長室たより

麻生の風

校長 奥野 康子

新緑の5月、木々の緑が日々色を変え美しい季節になりました。

ゴールデンウィークが終わる頃、子どもたちもまた、新しい表情を見せてくれます。子どもたちは、周囲とかかわりながら成長し、行動範囲が広がっていく人や友達の言動に関心をもって行動に変化が見られる人もいて、楽しみです。

少し前の卒業生のお話です。

彼は、周りの人と関わることが苦手で、自分の気持ちを伝えることも消極的でした。手先は器用で作業能力も高いのですが、いつも自信がなさそうな表情で、学校を休む日のほうが登校した日を大きく上回ってしまいました。担任とは、話をしたい様子で放課後学校に来ることもありました。

卒業を控え進路がなかなか決まらず、実習も進みませんでした。進路担当が持ってきた実習の面談の前に、私が面談をすることにしました。本当にこの進路先に進むつもりがあるのか、校長として推薦してよいのか、と本人に直接聞きました。「後がないといわれたから、やるしかない。」と、消え入りそうな声でしたが答えてくれたので、それなら推薦しようと伝えました。

その進路先でよい指導者との出会いもあり、仕事を教えてもらいながら漢字やパソコンも少しずつ教えてもらったようです。アフターフォローで巡回に行った進路担当からの報告は、「仕事は問題なく、話をしているときの表情も良かったです。本人が言うには、うまくいかないことが多い今までの自分が嫌いだったけど、少し自分が好きになってきたのだそうです。」というものでした。私は、涙が出ました。自分が嫌いだなんて悲しいことです。そして、好きになってきたと話すことができるようになった彼は、すばらしいと思いました。風の便りで聞いた話は、彼が歓送迎会の二次会で同僚とカラオケに行ったそうです。それだけでも、すごいなあと思いましたが、歌った歌が村下孝蔵の「初恋」だったようです。うれしくも微笑ましいエピソードです。

自分を好きになることと人を好きになることは、自分も他者も大切にすることです。自信を持って自分らしく生きることを願っていますが、可能性を感じる卒業生のお話でした。